

C 小林会長が積極的に活動してくださいました。いろいろなところを歩かれたし、機会あるごとに、対社長で話をしてくれたりしました。経営の効率化が再認識されようとしていた時だけに、時宜をえていたともいえます。趣旨に賛同された方々のお蔭で、無事、法人化の運びに漕ぎつけられたことは、欣快に耐えません。

A 小林会長がやってくださらなかったら、募金額はあそこまで伸びなかったと思います。ニクソン・ショックは歯止めみたいなものでしたが、それ以前からかなり不況感はあったので、募金の時期としてはいいときではなかったようです。

B それでも、もう少し遅れたらどうにもならなかった。スレスレに間に合ったという感じですね。

A 事務手続きのほうは問題なかったでしょうか。

B 後藤副会長には、文部省との折衝でかなりお世話になっています。具体的に手続きにはいつからは、細かい資料づくりで庶務幹事や会計幹事にはずいぶんご苦勞をおかけしていますが、文部省との折衝そのものはスムーズに行っているようです。

C 法人化するためには基金が必要で、最低 500 万円の基本財産は定期預金などになっていなければならないと定められているようですが、その他の基

金はどうなっていますか。

A いまの学会事務所を借りる保証金 286.5 万は、固定した基金のようなものですから、今度集まったお金のうちから出してもらっています。定期預金の分とあわせて 786.5 万はその意味で固定化しています。残りの約 300 万ぐらいのうち、法人化の事務手続きに、事務の委託をしています。印刷費などがかさんでかなりの額がかかりそうですが、その費用や記念事業費を除いた残りは、運用基金として取りくずさないものにしたいと考えています。

B いまの学会の経常費は苦しいけれど、何とかやりくりして、この特別会計の基金には手をつけたいことをはっきりしておくことがたいせつです。

C ちょうど樹を植えるようなもので、その木から、リンゴがなれば、それは食べてもいいが、木を伐り倒して金にしてはいけないと思います。果実だけを、賞金などそれにふさわしい形で使うことにとどめるべきでしょう。基金そのものに手をつけるくらいなら学会を解散してしまうほうがまだ、と私は思っています。こういうことも、ぜひ一般会員が承知しておいてほしいものです。

A どうも長時間ありがとうございました。このへんで終わらせていただきます。



経営科学 16 巻 1 号でお知らせした“会員の声”欄へ、“IFORS および IAOR について、活動などを教えて欲しい”という質問がありましたので、担当委員の回答を掲載いたします。

IFORS の活動と IAOR について

IFORS (International Federation of Operational Research Societies) は、各国の OR 学会を会員とする世界的な OR 学会の連合体です。IFORS は、統合された科学としての OR の発展と、世界各国における OR の振興をはかることを目的として、次のような事業を行なうことが、その憲章に唱われています。

1. 国際会議を主催・後援する。
2. 各国間の OR に関する情報の交換をはかる。
3. 各国の OR 学会の設立を促進する。

4. OR における資質の水準を維持する。

5. OR 教育を促進する。

6. OR の各分野間のバランスをとり、また、新しい領域を開拓する等、OR の開発を振興する。

IFORS の本部は、現在、イギリス OR 学会の中に置かれ、渉外、IFORS 刊行物、企画、の三つの常置委員会があって、活動しています。IFORS の活動資金は、各国 OR 学会に割り当てられる拠出金によっています。各国 OR 学会会員の中で、大学卒またはそれに等しい者で、2 年以上 OR 分野での活動の経歴を有する者を Qualified Member として人数を登録し、その人数の平方根に比例して、各国学会の拠出金の額が決定されています。

IFORS は、英・米・仏の OR 学会を母体として、1959 年に発足いたしました。現在は、合計 23 カ国の学会が参加しています（アルゼンチン、オース

トラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、デンマーク、フランス、ドイツ、ギリシャ、インド、アイルランド、イスラエル、イタリー、日本、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、アメリカの各国です。最近では、韓国 OR 学会が加盟することが予定されています。

会員の皆様が、外国へ行かれる折には、加盟学会と連絡をとって、交流をはかるなど、積極的に活用されるようお願いいたします。

IFORS の主催する国際会議は、3年に1度開催されています。第6回は今年8月に、アイルランドのダブリンで開催され、第7回(1975)は、日本で開催されることは、すでに本誌上でもおしらせていることですが、過去5回の会議は、次のように開催されました——1957：オクスフォード、1960：エクス・アン・プロバンス、1963：オスロー、1966：ボストン、1969：ベニス。

IFORS は、この間にも、数多くの国際会議の後援をしており、昨年の Cost-Effectiveness 国際会議には、日本からも参加しました。

1975年の第7回国際会議のために、当学会には準備委員会が設けられ、すでに活動を始めています。過去の国際会議への積極的な参加により、日本の貢献は高く評価されておりますが、会員の皆様のいっそうのご協力を、この機会にお願いいたします。

IAOR (*International Abstracts in Operations Research*) は、IFORS が発行している、世界の OR

関係の論文および単行本の英文抄録集です。年6回の隔月刊で、創刊は1961年、今年は第12巻が発行中です。

各国学会から、定期的にレビューする雑誌(単行書、政府刊行物も含まれます)を、IFORS 本部に登録してあり、各国の抄録委員が責任をもって抄録したものを編集・発行しているわけです。収録する雑誌の範囲は、類似の商業誌にくらべて狭いかもかもしれませんが、内容は、各国の Contributing Editor が責任をもっているのです、しっかりしているといえます。雑誌に発表されてから、IAOR に抄録されるまでの期間は、平均して6カ月くらいでしょう。収録数は、すでに1万編を越えています。各号は、モデル、実施例、理論の3部門に分かれていて、その中がさらに細かく専門別に分類されており、著者、項目による索引も完備していて、たいへん使いやすくてきています。

当学会員には、年間1,200円(定価の約1/5)で購読をお世話していますので、学会宛にお申し込みください。なお、日本の雑誌から英文に抄録してくださる方を募っていますので、ご希望の方は、IAOR 委員会へお問い合わせください。

(談) (文責在記者)

.....

“会員の声”欄には、研究発表会、月例講演会、学会機関誌等、学会の行事、活動、内容に関する会員のご意見、ご希望、ご質問等を、とり上げさせていただきます。原稿は、“会員の声”担当宛にお送りください。